楓の森アップデート２

合志市立合志楓の森小学校
学校だより　第17号
令和6年 12 月13日(金)
文責:校長 佐藤 政臣

〇校訓「志高く　道を拓く」　　〇学校教育目標「夢を持ち　自ら考え　よりよく行動できる児童の育成」

人権月間　パート２

人権教育は、子どもたちが実際の場面において、「①　自他の人権を守る行動をとることができる」、「②　知っているだけでなく、行動できるようになる」ことを目指しています。人権教育は、すべての教育活動の基盤となるものです。

そこで、この人権月間(11/13-12/13)を通して、「自分を大切にするとともに周りの人を大切にすること」を意識し、自分事として深く考えてほしいと思います。

どのようにしたら「優しさ」「思いやり」が育つのか

後期の人権集会で、「相手を大切に思う言葉がけ」について話しました。

トラブルの際に「バカ」、「死ね」などの相手を傷つける言葉づかいをしてしまう子どもがいます。言葉は、使い方によっては、「暴力」になります。

人権月間では、そのような言葉づかいについて考え、自分自身を振り返ることができました。

私たち教員や親は、「人に優しくできる子どもになってほしい」、「思いやりを持って周囲と接する子どもに育ってほしい」と願っています。

それらの気持ちは、生まれた資質ではなく、**育つ環境や声かけなどで育てられるといわれています。**

では、どのようにしたら「優しさ」や「思いやり」が育つのでしょうか。

①「優しさ」を育てるには「優しさ」が教科書

脳科学者の黒川伊保子さんは、その著書「息子のトリセツ」の中で、「優しい言葉」をインプットしなければ「優しい言葉」は出てこないと解説しています。

ですから、日頃から優しい言葉をかけられている子は優しくなるというのです。

例えば、「ありがとう」、「嬉しい」などのプラスの気持ちを表現する言葉や、ケンカした時などに、「くやしかったね、〇〇さんも同じ気持ちかな」などの相手の気持ちに寄り添う言葉などを伝えると優しさや思いやりの心が子どもの心の中に芽生えやすくなると言われています。

参考文献:学研キッズネット「思いやりのある優しい子に育てるため

大人の「優しい言葉」や「思いやりのある考え方」が、子どもの「優しさ」「思いやり」の最も身近で真似しやすい教科書になるでしょう。

②「優しさ」「思いやり」を育てるための接し方

第1に、「人の気持ちを想像する癖をつける」ということです。人に優しく接するには、相手の気持ちを汲み取り、想像する力が必要ですが、なかなか周りの人に感心を持つことができない子どももいます。大人が上手に伝えることで、他の人もいろいろなことを感じていると理解できるようになるでしょう。

例えば、「今日の〇〇ちゃん、元気がなかったなぁ」、「〇〇くん、練習中くやしそうにしていたね」などと、周囲の人たちの気持ちを想像できるような言葉がけをしていくと人の気持ちを想像する癖がつきます。そのうち、親(教師)が伝えなくても「きっとあんな気持ちだったに違いない」と想像力をめぐらせ、人の痛みや心をおもんばかる気持ちが育っていきます。

第2に、「大人が「優しさを発揮する相手になる」ということです。

子どもが優しくしてくれたら、「ありがとう」、「お母さんうれしい」などと大げさに反応しましょう。子どもは「人に優しくすると、喜ばれる」「共感してあげると嬉しそうにする」ということを体験し、次もまた同じような行動を取ろうとします。

第3に、「子どもの優しさにアンテナを張る」ということです。

例えば、「交差点でおばあちゃんが困っていたからみんなで手伝った」、「〇〇さんが具合悪そうだったから一緒に保健室に行った」などと人に優しくしたことを話したら、「きっと、おばあちゃんも喜んでいるよ」、「〇〇さんもいっしょについてきてもらって安心したと思うよ」と、「気付き、考え、優しい行動ができたこと」について、人に優しくすることは大切なことというメッセージを伝えましょう。子どもの行動、思いやりの気持ちに大人が注目することで、「大切なことである」とイメージされ習慣化されます。そのためには、大人がアンテナを張り、子どもの優しさと思いやりに敏感になる必要があります。

楓の森小 HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/